

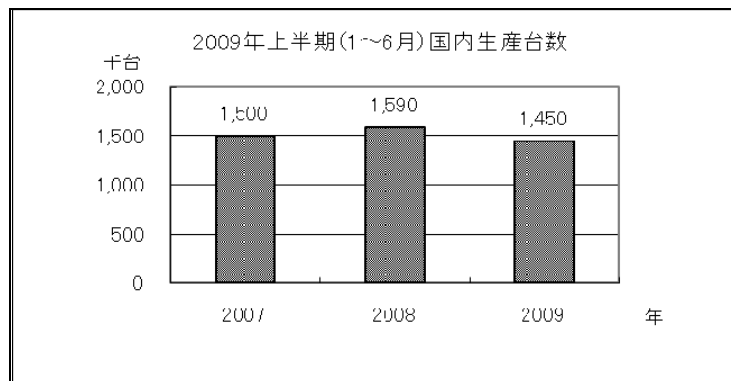
2009年上半期ドイツ自転車市況

1. 生産、輸出入

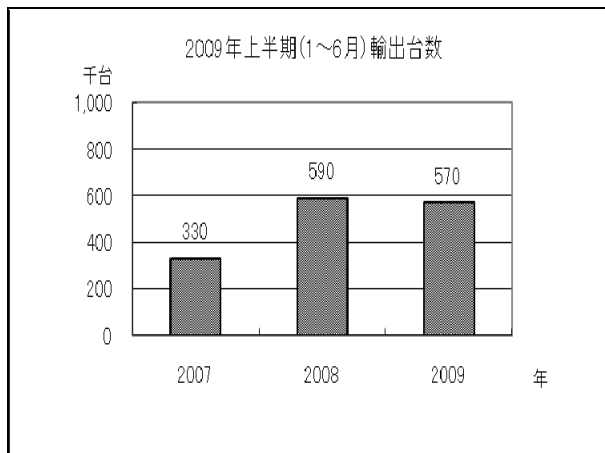
ドイツ二輪産業協会(ZIV)によると、2009年上半期(1~6月)のドイツ自転車市場は全般的に前年を下回る結果となった。2009年上半期ドイツ国内の自転車生産台数は前年比8.8%減の145万台となった。自転車輸出台数は同比3.4%減の57万台、輸入台数は同比5.1%減の168万台といずれも前年より減少した。

国別で見ると、最多輸出先はオランダの12.8万台となり、オーストリアは9.5万台とわずかに減少した。昨年増加のベルギーは前年比50%減、チェコ共和国は同比53%減と双方とも大幅減となった。また、最多輸入先は依然として台湾の24.5万台であるが、次いでタイ22万台、カンボジア8.6万台などがアジアの上位を占めた一方、インドネシアや中国からの輸入は減少した。欧州地域ではポーランド18万台、リトアニア11.5万台のほか、特にオランダからは14.5万台と前年比51%もの急増となった。

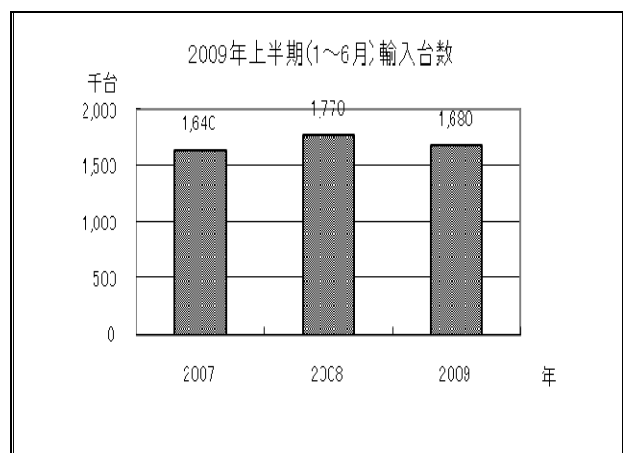
<国内生産>

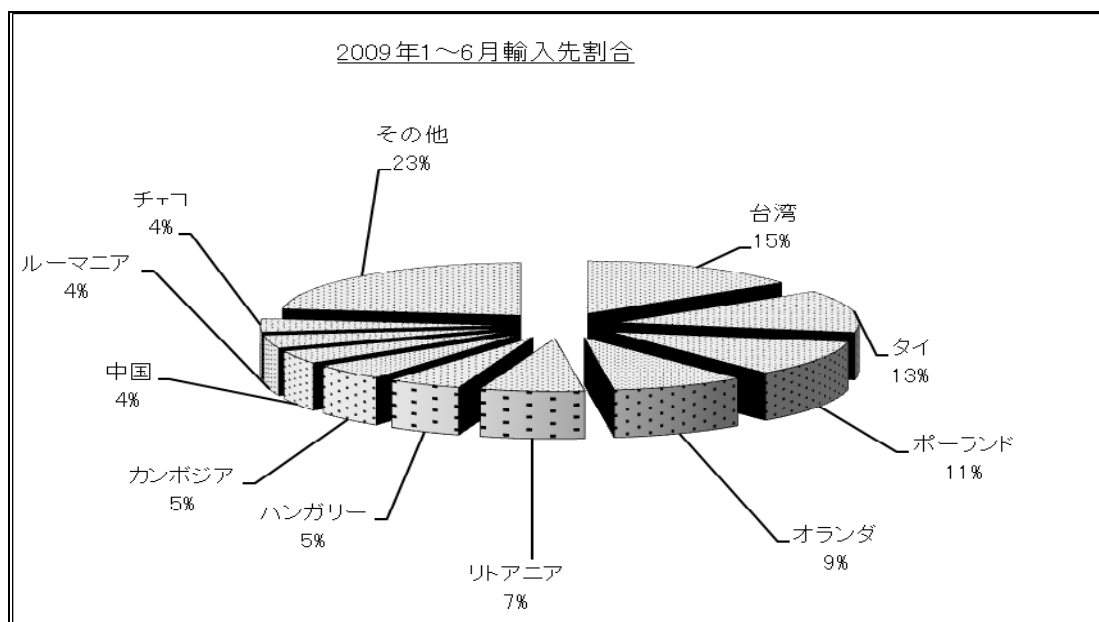


<輸出>



<輸入>

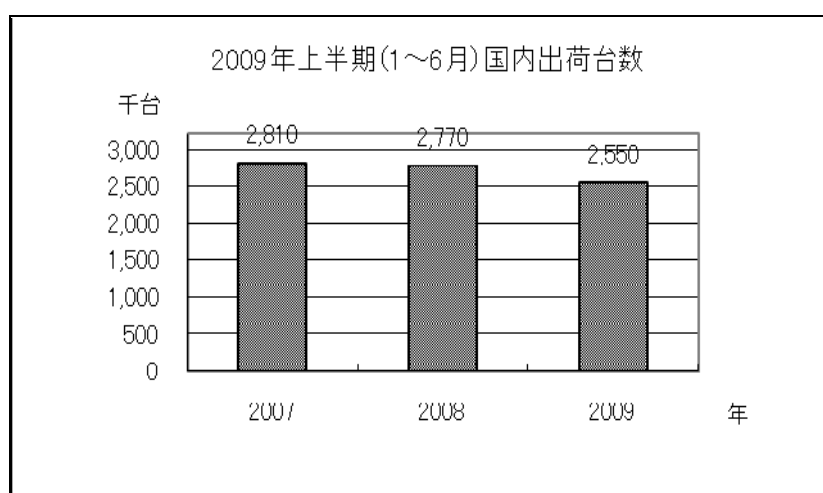




2. 国内出荷

2009年上半期(1～6月)の国内出荷台数は、前年同比7.8%減の255万台であった。そのうち41%が国内生産品で59%が輸入品となっている。しかしながら、全体的に販売減となった中でも、自転車小売専門店については堅調であり、その市場シェアは2008年の63%から2009年上半期は65%を占めるまでになったとZIVではみている。その一方、スーパーマーケット等の量販は引き続き苦戦を強いられているとみられる。

<国内出荷>



3. 今後の見通し

2009年上半期の独自自転車市場の減退の要因についてZIVでは、同上半期を通じて全般的に天候不順で販売が伸び悩んだことと、昨今の経済不況により新規需要が伸び悩み、各店が抱えた在庫の処理を進めたためではないかとしている。従って2009年下半期は在庫整理がひと段落し再び需要が増えれば、2009年全体のドイツ自転車市場の落ち込みは前年比5~6%減程度にまで持ち直すことが見込まれている。特に電動アシスト自転車は、2009年にはドイツで12万台、欧州全体では40万台の販売が見込まれており、同車種が下半期の独市場のけん引役となることが期待されている。

統計出所： ドイツ二輪産業協会(ZIV)

以 上

(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。